

～東日本大震災から10年～

3月11日、東日本大震災より10年という大きな節目を迎えました。あの日一瞬にして多くのかけがえのない命と、当たり前の日常が奪われました。改めて犠牲となられた方々とそのご遺族に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。そこで今回は「一人一人が防災の担い手に」「大和郡山市の防災力強化」について質問致しました。



3月定例会

「コロナ禍の防災力強化について」(要旨)

質問

コロナの軽症者が、自宅や宿泊先で待機を余儀なくされ、急変の発見が遅れ、大事に至る・・・と言った事例もあります。そういったときに役立つパルスオキシメーターの確保、また防護服の準備を要望していました。市の現状はどうなっていますか？

答弁

コロナ禍における避難所対応として、今年の1月末に6台2月中旬に6台、パルスオキシメーターを購入しています。また、濃厚接触者や発熱者などの対応を行う避難所担当者のために、防護服を12セット、簡易ビニールエプロンを60枚、避難所に備蓄しています。

質問

コロナ禍で避難所の人数制限がされることも予想されます。そういった際にスマホを利用して避難所の空き状況が確認できるアプリの導入が必要になると思われますが今後の対応をお聞かせ下さい。

答弁

現在、避難所開設の際、1時間ごとに避難者数の確認をし、集計しております。避難所が密になる状況になる場合は、市民安全メールで避難者数を発信可能です。今後の防災情報の発信につきまして、LINE や Twitter、FB など、その他のアプリの利用を調査研究して参ります。



質問

気象庁が委嘱する「気象防災アドバイザー」は気象防災情報に詳しく、自治体の防災対策を支援する専門家です。防災力アップのため「気象防災アドバイザー」の利用と気象台との連携の現状をお聞かせ下さい。

答弁

平成29年、北和4市消防団幹部と市町村災害ネットワークとの合同研修会を開催し、奈良気象台から講師を迎え、ご講演いただきました。気象台主催の研修会に積極的に職員を参加させ連携を図っています。加えて、台風接近時など随時電話連絡し、気象予報を直接お聞きすることもあります。「気象防災アドバイザー」の利用については研修会開催の機会に検討したいと考えています。

質問

洪水ハザードマップを更新し、浸水区域が大幅に変更になったと言うことです。そこで、浸水の危険性がある箇所の電柱に浸水深を示す看板を設置してはどうでしょうか。また言葉や文字の違いに関係なく、耳の聞こえない方や外国人に対しても、一目見ただけで案内を可能にするピクトグラム(絵文字)の利用。大和郡山市全体がハザードマップと捉えた新たな取り組みを進めていただけるかお考えをお聞かせ下さい。

答弁

想定浸水深の表示は現在、市民交流館付近と郡山東中の2ヶ所に設置しています。今後は各関係にご意見を伺い、他市町村の状況も研究の上、検討してまいりたいと考えています。ピクトグラムを利用した避難情報の発信につきましては、先進地の事例や近隣市町村の情報を収集し、研究してまいりたいと考えます。

※詳細は インターネット中継をご覧ください



[こちら](#)

予算特別委員会に出席!

今回、予算特別委員会の委員として村田議員(委員長)とともに出席し、3日間に渡り、慎重に審議しました。

主な事業内容

・庁舎建設事業	約42億円
・郡山城跡公園整備事業	約13億円
・元気城下町発・未来行きチケット	約2億7千万円
・臨時外来検査センター事業	約3000万円
・市税等スマホ決済導入事業等	約1200万円

追加購入決定

昨年11月、市立図書館に導入された『書籍消毒機』。コロナ禍の取り組みの一つとして要望し、多くの市民の方に、ご利用いただいています。

その『書籍消毒機』が、この度の新年度予算に反映され、追加購入される運びとなりました!

